令和3年11月26日

令和３年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和３年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和3年5月27日(木)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第２学年　国語　143 人　社会　143 人　数学　144 人

理科　145 人　英語　144 人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

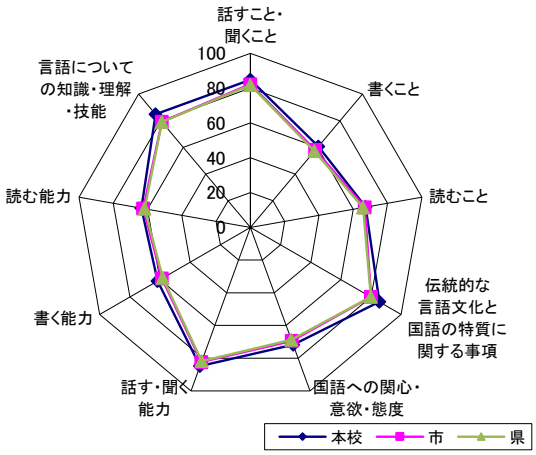
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.8	82.3	81.8
	書くこと	60.7	58.0	57.2
	読むこと	67.2	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	85.5	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	71.8	69.4	68.8
	話す・聞く能力	84.8	82.3	81.8
	書く能力	61.6	58.8	58.1
	読む能力	63.6	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	84.8	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

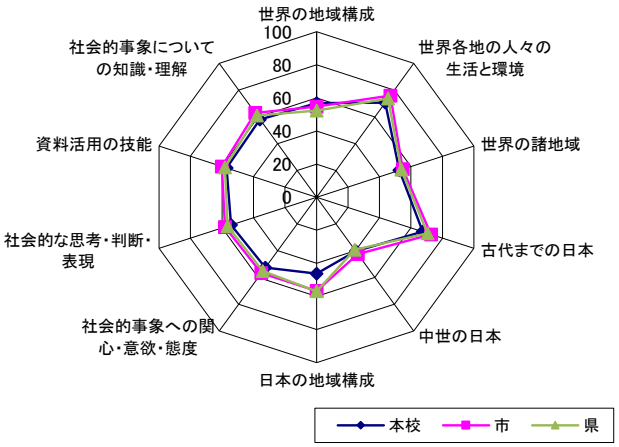
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	正答率は、県を3.0ポイント、市を2.5ポイント上回っている。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、国・県・市の平均を大きく上回っている。 ●「正確に聞き取る」問題では上回り幅が他より小さい。	・「よく聞く」ということについては日頃の授業の様子からも見とることができる。今後は更に正確を期すこと、話し合いを生かして自己の考えや意見を深めたり高めたりできるよう指導をしていく。
書くこと	正答率は、県を3.5ポイント、市を1.3ポイント上回っている。 ○食品ロスについてレポートを書く問題や作文問題では、県・市の平均を大きく上回っていてる。 ○特に作文においては文章構成の出題で顕著な優位性を示している。	・折に触れて作文練習を行ってきたことが結果に反映されている。今後は、書くことへの抵抗をなくすためにも、作文を書く機会を継続的に設けていく。
読むこと	正答率は、県を1.6ポイント、市を0.6ポイント上回っている。 ○説明文の内容を読み取る問題、文学作品の内容を読み取る問題ともに、県・市の平均を上回っている。 ●文学作品の内容を読み取る問題のうち、表現の特徴や人物の心情の変化をとらえる問題で内容を誤解した生徒が見受けられる。	・描写から心情を推し量るような読み取りに、伸びしろがあると考えられる。読書活動を推進し、心情の移り変わりが行動や情景の感じ方にどう影響するかを、具体的に想起しながら読み進める学習を展開していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	正答率は、県を4.6ポイント、市を5.5ポイント上回っている。 ○漢字の読み、漢字の書き、文法や語句に関する知識を問う出題では、県・市の平均を大きく上回っている。 ○特に漢字の書きにおいては全4問ともに、県・市の平均点を6.4～19.7ポイント上回っている。	・漢字の読み書き等、基礎の内容で力を付けることは、今後の国語の学習にも自信をもって取り組めることにつながるので、新出の漢字や語句についても正確に理解し、定着させられるような働きかけをしていく。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	56.9	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	70.6	75.9	73.7
	世界の諸地域	52.6	54.8	53.9
	古代までの日本	67.5	72.7	70.5
	中世の日本	40.3	42.4	39.3
	日本の地域構成	46.2	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	52.6	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	54.3	58.1	56.4
	資料活用の技能	57.1	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	58.1	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

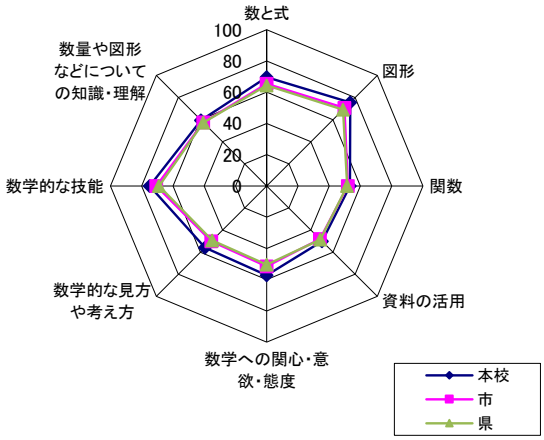
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	正答率は、県を4.6ポイント、市を2.2ポイント上回っている。 ○地図の図法の特徴についての問題では．県より10ポイント以上上回っている。 ○世界の地域区分の問題では，80%以上の正答率であり、学習内容が定着している。 ●適切な地図を選択し，それをもとに方位を判断する問題は25%の正答率で県をやや下回っている。	・ICT機器や地球儀・地図などを効果的に使用して，緯度や経度・方位について正しく読み取れるように指導の工夫を図る。 ・資料を精選し，読み取りの際には分布や変化に注目させ，読み取りの視点を明示したうえで考察させる指導を継続する。
世界各地の 人々の 生活と環境	正答率は、県を3.1ポイント、市を5.3ポイント下回っている。 ○乾燥した地域の暮らしや高山気候の特色についての正答率は70%を超えており、、おおむね理解できている。 ●冷帯気候の暮らしについて，複数の資料をもとに考察する問題では，県より7ポイント下回っている。	・ICT機器や世界各地の人々の生活の動画を効果的に活用して，各地の生活に興味を高めさせる。 ・複数の資料から各地の生活の特色を読み取らせる指導を随時行う。 ・気付きを発表させる言語活動の展開を充実させる。
世界の諸地域	正答率は、県を1.3ポイント、市を2.2ポイント下回っている。 ●モノカルチャー経済の国が抱える課題について，資料をもとに考察し，表現する問題は，県をやや上回っているが，正答率は33.9%と低い。 ●アジアの国の自然，人口，産業についての問題では，県より6ポイント下回っている。	・自分たちの生活と比較して，グローバル的な視点から自分たちの生活との関連や世界各地との共通性や相違性を認識させる。 ・諸地域の特色が明確にわかる資料を通して，自然や産業など地域の特色をつかませる学習を継続する。
古代までの日本	正答率は、県を3.0ポイント、市を5.2ポイント下回っている。 ○縄文時代の生活や奈良時代の政治についての問題は，80%以上の正答率であり、学習内容は定着している。 ●複数の資料をもとに考察する問題や国風文化についての理解の問題では，県より5ポイント下回っている。	・時代のまとまりをしっかり捉えて，時代を代表する人物や歴史的事象を通して，歴史の学習に関心を高められるよう指導を工夫する。
中世の日本	正答率は、県を1.0ポイント上回っているが、市を2.1ポイント下回っている。 ○戦国大名の支配について，資料をもとに判断する問題は，県を8ポイント上回っている。 ●封建制度や建武の新政など，中世の政治についての問題は，正答率が25%と低い。	・中世については，歴史の学習の中でも苦手とする生徒が多く，正答率も低い傾向にある。身近な中世の史跡や人物をわかりやすく紹介し，関心を高める指導を工夫して行う。
日本の地域構成	正答率は、県を10.7ポイント、市を10.5ポイント下回っている。 ●日本の標準時子午線，日本の領域をめぐる問題，排他的経済水域についての出題では，市・県と比較して正答率の低い問題があり、この領域全体の正答率が、県・市とも下回っていることから、学習内容の定着に課題が残る。	・ICT機器や地図・写真資料などを効果的に使用して，日本の位置や領域について正しく読み取れるように指導の工夫を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	69.6	65.4	64.4
	図形	75.6	70.5	69.0
	関数	53.3	51.9	51.5
	資料の活用	50.1	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	57.2	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	55.9	50.2	49.4
	数学的な技能	74.9	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	59.5	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

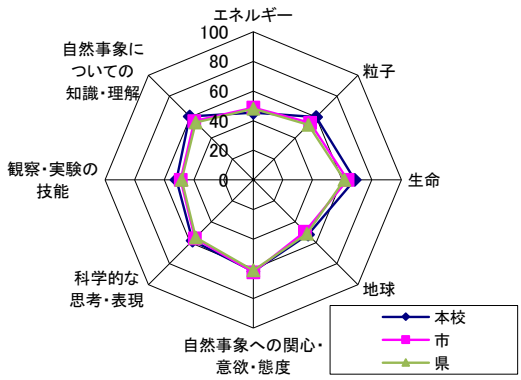
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、県を5.2ポイント、市を4.2ポイント上回っている。 ○正負の計算、文字式の計算の問題では、すべての問題で、県・市の平均を大きく上回っている。 ●「1次方程式の解の意味を理解している」ことを問う問題で、わずかながら県の平均を下回っている。 ●示された数式の意味を説明する問題では、正答率が16%と低い。	・引き続き計算力を高められるように、授業の最初に計算練習を入れたり、AI型個別学習ドリルを活用した学習を効果的に取り入れたりして、学習内容の定着を図る。 ・用語の持つ意味などの定着のために、授業の振り返りで、その用語を用いて自分の言葉で書かせるなどの工夫を図る。 ・説明をする問題に対して、授業中にも取り扱ったり、定期テストに出題したりして問題に慣れさせる。
図形	正答率は、県を6.6ポイント、市を5.1ポイント上回っている。 ○平面図形、空間図形とも、ほとんどの問題で70%以上の正答率であり、学習内容の定着が図られている。 ●おうぎ形の面積を求める問題では、県の平均は上回ったものの、57%の正答率で留まっており、やり方を忘れてしまっている生徒が多くいた。	・図形の基本的な知識や技能をさらに定着させるために、図形の学習に入る前に、既習の内容の復習を行う。
関数	正答率は、県を1.8ポイント、市を1.4ポイント上回っている。 ○比例のグラフから速さを求める問題では、正答率が84%と高い。 ●表から反比例の式を求める問題では、46.5%の正答率で、理解が不十分な生徒が多い。	・式、表、グラフの関係がしっかり結び付けられるように、授業中にまとめられるよう指導する。 ・関数に関しては、全体的に理解度の低さが見られるので、少人数学習を取り入れたり、AI型個別学習ドリルを活用したりして定着を図る。
資料の活用	正答率は、県を1.5ポイント、市を2.0ポイント上回っている。 ○最頻値について理解をしているかを問う問題では、正答率が77%と高い。 ●累積度数について理解しているかを問う問題では、正答率が25%と低く、理解が不十分な生徒が多い。	・実力テストの前や後の効果的なタイミングで復習を取り入れ、定着を図っていく。 ・累積度数については、用語の意味を理解するだけでなく、その必要性についても理解できるよう指導していく。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	45.4	48.8	48.1
	粒子	60.1	54.4	52.6
	生命	68.5	63.7	61.5
	地球	52.3	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.8	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	57.9	55.7	54.8
	観察・実験の技能	51.8	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	60.7	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

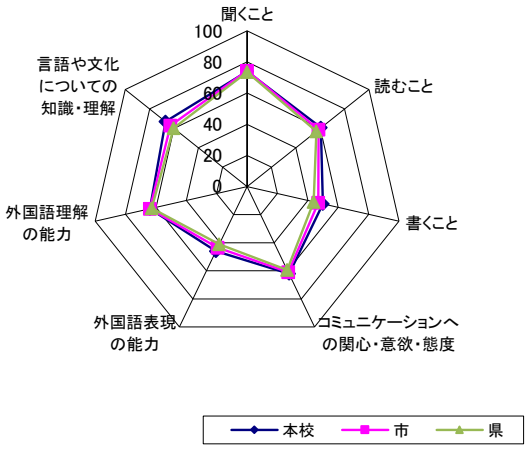
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は、県を2.7ポイント、市を3.4ポイント下回っている。 ○光源からの道筋の作図、音を伝えるものについての問題は、県をわずかながら上回っている。 ●スクリーンの像についての問題では、県より5.0ポイント下回っている。 ●音の高さの調節の仕方についての問題では、県より2.5ポイント下回っており、正しく理解できない生徒がいる。	・凸レンズの像の仕組みについては、図を提示して丁寧に指導することを繰り返して行う。レンズと物体との距離によって像が変化することを、生徒自らが簡易図を書いて理解できるように指導する。 ・「音」の性質について、理解が十分でない生徒がいるので実験をもとに確認させる。
粒子	正答率は、県を7.5ポイント、市を5.7ポイント上回っている。 ○金属の性質についての問題では、正答率は82.1%と高く、県を8.8ポイント上回っている。 ●二酸化炭素を水上置換法で集めても、正確な体積を調べることができない理由を問う問題では、県を0.7ポイント上回っているが、正答率が35.2%と低い。 ○グラフの読み取りや濃度の計算、物質の状態変化についての問題の正答率が高い。	・気体の性質と収集方法の違い、気体の発生方法を整理してまとめる。複数ある気体の違いを比較して、説明できるように指導する。 ・AI型個別学習ドリルを活用した学習を効果的に取り入れ、学習内容の定着を図る。
生命	正答率は、県を7.0ポイント、市を4.8ポイント上回っている。 ○両生類の呼吸の仕方についての問題についての正答率は88%を超えており、動物の分類、特徴をよく理解している。 ○マツの花粉の空気袋の働きを推測し、説明する問題では、県を8.0ポイント上回っている。	・生徒の関心が高い単元で、意欲的に学習することができているので、今後も違いを明確にさせる時に、表にまとめたり、図に示したり、視覚的に印象付けられるよう継続して指導する。
地球	正答率は、県を0.9ポイント、市を2.9ポイント上回っている。 ○「石基」の理解を問う問題では県を11.2ポイント、マグマの粘土によってできた火山の形を推測する問題では県を6.1ポイント上回っている。 ●堆積岩の理解を問う問題では、県を6.1ポイント下回り、正答率も25.5%と低い。	・岩石の種類について、整理してまとめたり、複数ある岩石のでき方の違いを比較させたりして、説明できるよう指導を工夫する。 ・岩石のでき方の説明をした後でも、岩石の観察を取り入れ、その岩石の特徴を印象付けるように指導する。 ・AI型個別学習ドリルを活用した学習を効果的に取り入れ、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	73.9	74.4	73.5
	読むこと	60.7	58.7	56.9
	書くこと	49.9	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	62.1	61.0	59.4
	外国語表現の能力	46.1	43.5	41.1
	外国語理解の能力	64.0	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	66.9	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、県を0.4ポイント上回ったが、市を0.5ポイントした回っている。 ○対話文の応答を問う問題では、3問中2問が県を2ポイント程度上回っている。 ●さまざまな英文を聞いて登場人物が最も伝えたいことを問う問題で、英文の要点の聞き取りで47.9%、対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えるものでは18.1%という低い正答率であり、聞いた英語の情報を正確に理解して正しい答えを導くのが苦手な生徒が多い。	・授業の初めに行うウォーミングアップで、生徒同士や生徒と教師間でのやりとりを多く取り入れ、相手が話したことを正しく理解したり、即興で応答したりする活動を継続して行う。 ・教科書の本文内容に関する質問を英語で聞き取り、正確に答えられる活動を取り入れる。
読むこと	正答率は、県を1.8ポイント、市を2.0ポイント上回っている。 ○語形・語法・語彙の知識・理解を問う問題では、全ての問題で県を上回っており、特に現在進行形の疑問文は11ポイント、canの疑問文は12.6ポイント上回るなど、理解が深まっている。 ●長文の内容を理解したり、内容を踏まえて英文を完成させる問題では、県を4ポイント程度下回っている。特に内容を踏まえて英文を完成させる問題の正答率は15.3%と低く、長文読み取りが苦手である。	・文法や単語に関する知識・理解は深まっているが、長文理解が苦手な生徒が多く見受けられる。今後は、学習した情報や知識を活用して正確に長文を読むことができるよう発問を工夫し、生徒の考えを深める活動を推進する。
書くこと	正答率は、県を6.0ポイント、市を3.1ポイント上回っている。 ○情報に基づいて書く英作文の問題では、県を6.6ポイント上回っている。 ●自分のことを表現する英作文では、半数近くの生徒が3文以上書けなかった。	・どの単元でも、自分の考えを書く活動を取り入れ、ある程度まとまりのある英文を書く練習をしていくことを通じて、英作文に対する苦手意識を克服する活動を継続的に行う。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「勉強していて，おもしろい，楽しいと思う」「勉強していて不思議だな，なぜだろうと感じる」の肯定的な回答が，県，市の回答より10ポイント高い。日頃の授業においても，疑問を率直に質問できる雰囲気が見られ，主体的に学習に取り組んでいる様子がうかがえる好ましい回答だと思われる。

○「将来の夢や目標をもっている」の肯定的な回答が，県，市の回答より4ポイント上回っている。また，「自分の良さを人のために生かしたいと思う」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」の肯定的な回答がいずれも90%を上回っている。社会体験学習事後アンケートからも生徒・保護者ともにキャリア教育への意識の高さがうかがえる。今後の進路決定に生かしていきたい。

●「家で，学校の宿題をしている」「家で，学校の授業の復習をしている」の肯定的な回答は県，市の回答を上回り高い数値であるが，「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」「家で，学校の授業の予習をしている」の肯定的な回答はかなり数値が低くなっている。先を見通した計画的に学習を進められるように支援していく。

●「勉強していて不思議だな，なぜだろうと感じる」反面，「疑問や不思議に思うことは，わかるまで調べたい」の肯定的な回答が県や市の回答より2～3ポイント低い。また、「できるだけ自分の力で課題を解決しようとしている」の肯定的な回答は，県や市の回答より10ポイント下回っていた。今後も、課題設定➡追究➡まとめ・振り返りの活動を意識して取り入れたい。

●「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業で扱うノートには，学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の肯定的な回答は，いずれも県，市の回答より10ポイント下回っている。授業において，各教室に置かれている【ねらい】と【振り返り】のカードを使って，導入と終末が生徒に明確にわかるように意識したい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの作成 ・スタンダードテストの実施	・毎日，大学ノート1ページ分の学習を家庭で行い提出する。 ・年間に10回漢字の書き取りテストを実施する。	「家で，学校の宿題をしている」の肯定的な回答が95%を上回っている。「家で，学校の授業の復習をしている」の肯定的な回答が県，市の回答より5ポイント上回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業で使うノートには，学習のねらいとまとめを書いている」の肯定的な回答が県，市より10ポイント以上低い。	授業の振り返りの活動を通して，その単元の目標を理解し，定着できるように工夫する。	教室の黒板に用意してある【ねらい】と【振り返り】のカードを活用する。授業の始めに目標を設定し，最後に振り返りを行う形を確立して実践していく。